

インターバンクの声（2016 年 12 月 13 日）

東京市場では、昼前後にいったん 115 円台前半まで円が買い戻されたが、ロンドン市場がオープンする頃には 116 円台まで円売りが進んだ。米連邦準備制度理事会 (FRB) が今週開く連邦公開市場委員会 (FOMC) では利上げされる可能性が高く米長期金利が上昇していたことに加え、原油価格の上昇も後押しとなっていた。ただ、先週末の東京市場では 114 円台中盤での取引が中心だったことを考えると、さすがに 2 日で 2 円近い円売りの進行は早過ぎると感じた市場参加者も多く、米長期金利が低下したこともあって、ニューヨーク市場では一時 114 円台に戻す場面もあった。FOMC についても利上げばかりが材料だったが、昨日はドル高が行き過ぎたとの認識を示す声明になるとの懸念が広がり、特に材料がない中でのドル高に対する警戒感が出始めた。

ただ、ナスダックやS&P500 は若干下げたものの、ニューヨーク・ダウは6営業日連続で史上最高値を更新するなど、株式市場ではまだドル高への懸念は見られない。昨日のドル高値からは 1 円超下げているので、ドルを買い遅れている人にとっては買いやすくなったようにも見えるが、ドル高への警戒感からもう少し様子を見たいところだろう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。